

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センターだより

発行者：寺柿 政和/事務局：地域医療連携センター・広報委員会

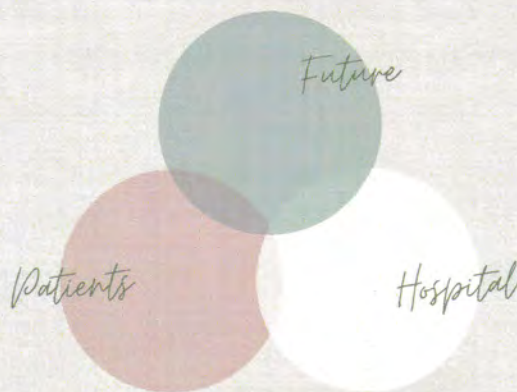
2026年6月の診療報酬改定では、地域の救急医療に対する評価が見直されました。当院の2025年度の救急車受け入れ件数は6,300件余りとなり、2024年度の6,200件余りと比べて100件以上増加しています。今後は、地域の医療機関や他の病院、診療所、介護施設などとのアライアンス（連携）が、これまで以上に求められてくるのではないかと考えています。そのためには、当院が持つ医療資源を活用して「提供できること」と「提供できないこと」を地域の皆さまに広く知っていただくことが重要であると感じています。その際に大切なことの一つは、「われわれの顧客は誰か」という視点です。診察室や病棟では、目の前にいる患者さんが顧客です。では、病院という立場で地域を考えたときの「顧客」は誰でしょうか。登録医の先生方や、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設などの施設職員、救急医療の場面では救急隊の皆さまが顧客となるかもしれません。このように、TPOによって「顧客」は変わります。「顧客」とは、「関わる相手」と言い換えることもできるでしょう。常にその時々で変わる「顧客（相手）」を意識し、相手がどのように考え、何を求めているのかを想像しながら対応することが、地域から信頼される病院づくりにつながると考えています。

TOP

MESSAGE



院長 寺柿 政和



■登録医総会・医療講演会 開催のお知らせ

当院では、2026年11月14日（土）に都シティ大阪天王寺において、「2026年度 東住吉森本病院 登録医総会」および「第15回 大阪市南部地区医療講演会」を開催いたします。登録医総会では、当院の現況報告や地域医療連携に関する情報共有を行います。医療講演会は、地域の医師をはじめ、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど、多職種の医療従事者を対象に、地域医療に役立つテーマで開催予定です。また、講演会終了後には懇親会も予定しております。詳細は決まり次第ご案内いたします。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

地域医療課 係長 土取 博



Message from the
New Department Head

就任あいさつ



外科
副院長 村橋 邦康

Message

2026年4月1日より、副院長・外科として入職いたしました、村橋邦康と申します。

1993年に大阪市立大学（現：大阪公立大学）を卒業後、大阪市立大学第一外科に入局（現在は大阪公立大学医学部消化器外科学）し、消化器外科医として、主に急性腹症と悪性疾患に対する治療に長らく携わり、外科医としての知識や技術の習得だけでなく、患者さんあるいは地域の医療機関とのコミュニケーションの大切さを学んでまいりました。

拠点病院として地域の皆さまの健康を守っていくためにも、院内だけでなく、地域の医療機関の先生方としっかり連携を取りながら、より良い医療が提供できるよう尽力いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



整形外科
副部長 安田 宏之

2026年4月より整形外科副部長として着任いたしました。2004年に大阪公立大学を卒業し、同大学整形外科に入局いたしました。専門は脊椎外科で、主に中高年の変性疾患を担当しております。骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術の一つである経皮的椎体形成術（BKP）を得意としております。BKPは、研修プログラムを受講した医師でなければ実施できない手術であり、治療ができる施設が限られています。小生はBKP指導医の資格を有しており、本年度から当院はBKPを医師に指導する研修施設となりました。メドトロニック社のBKPシステムで実働している研修施設は、現在のところ大阪府内では当院のみです。現在まで約200人の医師にBKPを指導してまいりました。小児や腫瘍などの希少疾患については対応が困難な場合もございますが、椎体骨折や脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなどの疾患に対しては、可能な限り迅速に対応させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2026年4月より入職いたしました豊田新一郎と申します。



消化器内科
豊田 新一郎

私は2012年に大阪大学を卒業後、大阪大学医学部附属病院およびその関連病院、クリニック等に勤務し、糖尿病をはじめとする内分泌代謝疾患の診療に従事してまいりました。これまで当院の糖尿病診療は非常勤医師による外来診療が主体でしたが、今後は糖尿病の血糖管理や患者指導を目的とした入院を開始していく予定です。

昨今、糖尿病治療薬の開発は日進月歩であり、治療の選択肢も大きく広がっております。患者さまそれぞれの病態や生活背景に応じた治療をご提案できればと考えております。外来での血糖管理に難渋している方、在宅自己注射の導入や指導が必要な方、教育入院に意欲的な方などがおられましたら、ぜひお気軽にご紹介ください。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

Message from the
New Department Head

就任あいさつ



循環器内科
河 吉則



Message

2026年4月より循環器内科に着任いたしました、河吉則と申します。
2021年に大阪公立大学を卒業後、同大学循環器内科へ入局し、関連病院にて初期研修および後期研修を行ってまいりました。このたび医局人事により東住吉森本病院へ赴任いたしました。
これまで主に虚血性心疾患領域を中心に診療・研鑽を積んでまいりましたが、循環器内科医としてより幅広い知識と技術を習得すべく日々努力しております。当院では、寺柿院長、西矢部長をはじめ諸先生方のご指導のもと、さらなる研鑽を積んでまいりたいと考えております。また、各診療科と連携しながら、地域に質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。至らない点も多いかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



形成外科
岡本 貴恵

2026年4月より入職いたしました形成外科の岡本貴恵と申します。2018年に近畿大学を卒業し、2020年より大阪医科大学形成外科へ入局しました。大学病院や関連市中病院でさまざまな症例の診療にあたってきた経験を活かし、当院でも粉瘤などの皮下腫瘍および皮膚がんなど悪性を含む皮膚腫瘍、顔面骨骨折やその他体表の外傷、眼瞼下垂や睫毛内反症などの眼瞼疾患、陥入爪、臍ヘルニア、ケロイドなど幅広い疾患に対応しております。患者さんにとって最善の治療とケアを提供し、地域医療に貢献できるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
(似顔絵は以前担当していた患者さんに描いていただいたものです。披露する機会がなく、せっかくなので使用させていただきました。)



整形外科
湊 俊毅

2026年4月より整形外科の一員として勤務しております、湊俊毅と申します。2022年に大阪市立大学（現：大阪公立大学）を卒業後、複数の医療機関で研鑽を積み、このたび東住吉森本病院に赴任いたしました。現在は一般整形外科を中心に、外来診療および手術加療に従事しております。当科では、骨折や関節疾患、スポーツ障害、骨粗鬆症など運動器疾患全般の診療を行っております。健康寿命の延伸には、早期診断・治療に加え、運動習慣の維持や転倒予防が重要です。そのために、地域の先生方との連携を大切に、患者さまにより良い医療を提供できるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

Infection Control

感染制御 №.41

■感染リンクナースの活動紹介

2026年度、当院には11名の感染リンクナースが在籍しています。習得した感染対策の専門的な知識や技術をもとに、現場スタッフへの教育・指導を行い、早期の感染対策と感染拡大防止に大きな役割を担っています。そのため当院では、リンクナースが活動しやすいように、リンクナースの教育やサポート体制に力を入れて取り組んでいます。昨年度のリンクナースの活動は、手指衛生サーベイランスと感染対策ラウンドを中心に活動したほか、院内の感染防止ガイドラインの見直しも主体的に行いました。今年度は、さらにリンクナースを対象とした定期的な勉強会と、現場の感染問題に対する相談会を行い、感染リスクに気づく力や発信力の向上を図っています。現場の手指衛生剤の使用量が大幅に増加するなどの成果も得られており、リンクナースの働きかけによって現場スタッフの意識向上につながっています。リンクナースの力は、院内感染防止の大きな鍵となります。

今後もリンクナースが自信を持って活動できるよう、育成プログラムの充実を図ってまいります。感染リンクナースの取り組みは、クリニックや高齢者施設等でも実践できます。手指衛生の確認、環境整備のチェック、感染症発生時の初動対応の標準化など、できるところから始めてみてください。その活動が、感染対策力の向上につながります。



感染管理認定看護師 平松 真樹

Community Colors

地域のいそどり №.20

■成年後見制度が大きく変わります

2026年4月、政府は成年後見制度の見直しに関する法案を閣議決定しました。2000年の制度開始以来、約26年ぶりとなる抜本的な見直しで、医療・介護の現場にも大きく関わる内容です。主な改正点は、「後見」「保佐」を廃止して「補助」に一本化すること、必要がなくなれば利用を終了できるよう終身制を見直すこと、本人の状況に応じて補助人を柔軟に交代できるようにすることです。

①「補助」への一元化

「後見」「保佐」を廃止し、「補助」に一本化されます。補助人の権限は必要な範囲に限定され、一人ひとりの状況に応じた支援が可能となります。

②終身制の廃止

必要がなくなれば、家庭裁判所が職権または家族の申立てにより利用を終了できるようになります。

③補助人の柔軟な交代

本人の状況や相性に応じて補助人を選び直せるようになります。

施行は公布から2年6か月以内（2028年度中の見込み）とされており、既存の後見・保佐利用者も新制度への移行や終了の申立てが可能となります。

医療・介護従事者の皆さまにおかれましては、制度の趣旨を理解したうえで、本人の意思を中心に据えた権利擁護支援を引き続きご検討ください。

地域医療課 課長 杉井 健祐

Community Care Workshop Report

地域医療介護連携 推進研修報告

■地域医療介護連携推進研修報告

5月・6月に地域医療介護連携推進研修を開催し、両日とも60名を超える地域の医療・介護従事者の皆さまにご参加いただきました。

5月は「褥瘡予防ケア（スキンケアとポジショニング）」をテーマに、看護師によるスキンケアの講義と作業療法士によるポジショニングの実技を実施しました。



6月は「地域で支える糖尿病」をテーマに、疾患の理解から血糖管理、緊急時の対応、多職種連携まで、日々の実践に役立つ内容を学びました。

どちらの研修も講演後には多くの質問が寄せられ、地域医療を支える多職種の皆さまの学びへの意欲の高さが感じられました。当院では今後も地域の医療・介護従事者の皆さまと共に学び、地域医療の質の向上に取り組んでまいります。

地域医療課 課長 杉井 健祐



For safe medical care

医療安全 No.20

■身体的拘束最小化の取り組み

身体的拘束最小化を推進するためには、個人の努力だけでなく、組織全体での意識改革と体制整備が重要です。身体的拘束は患者さまの尊厳や生活の質を低下させる可能性があるため、組織として「身体的拘束を行わないケア」を基本方針として共有し、全職員に周知する必要があります。そのためには、定期的な研修を実施し、身体的拘束による心身への影響や法令、代替ケアの方法について学ぶ機会を設けることが求められます。

また、身体的拘束が必要と判断される事例については、多職種で検討する会議を開催し、原因分析や代替策の検討を行うことが重要です。さらに、ヒヤリハットや事故報告を活用し、転倒リスクや行動への対応方法を組織的に見直す体制も必要です。患者さまの状態や生活歴を理解し、個別性を重視したケアを実践することで、拘束に頼らないケアができます。そのためには、職員間の情報共有を密にし、チーム全体で患者さまを支える体制を構築することが大切です。身体的拘束最小化は継続的な取り組みであり、組織全体が患者さまの尊厳を守るという共通の目標を持ち、改善活動を積み重ねていくことが求められます。



医療安全管理室 室長 石津 真由美

■ 臨床研修病院の理念・基本方針

【研修理念】

病める人の尊厳を守り、医学・医療の果たすべき社会的使命を自覚し、適切な全人的医療をチームのメンバーと協力しながら提供できる医師を目指します。

【基本方針】

次の1～6のような資質を備えた医療人を養成する。

1. 人間性豊かな医療人
2. 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持つ医療人
3. 患者の立場に立った医療を実践する医療人
4. チーム医療のできる医療人
5. 生涯学習をする医療人
6. 地域医療支援病院としての責務を自覚し、地域医療に貢献する医療人



Clinical Training
Hospital

臨床研修病院

■ 病院の理念・基本方針・患者さんの権利

【病院理念】

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. よりよい、サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

【基本方針】

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域簡潔型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

Philosophy

病院理念

患者さんの権利

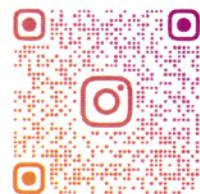
1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

当院では、公式Instagramアカウントを開設しています。

ぜひフォローして、最新情報をチェックしてください！

アカウント名：東住吉森本病院公式アカウント

ユーザー名：@morimoto.hospital.official



MORIMOTO.HOSPITAL.OFFICIAL

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センター

地域医療機関・施設さま専用 お問い合わせ先

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

受付時間 平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

Community
Liaison Center

地域医療連携センター
センター長 大場 一輝